

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年1月24日】第110号



## 新型コロナウイルス感染防止を第一に

東京都を含む1都12県において、1月21日（金）から2月13日（日）まで、まん延防止等重点措置の実施が決定されました。農大稲花小では、文部科学省のガイドラインなどに基づき「持続的に児童生徒等の教育を受ける権利を保障していくため、学校における感染およびその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校運営を継続」していくこととしています。そのため日ごろから三密を避け、マスクの着用、換気や手洗いの励行などにより感染拡大の防止に努めています。保護者の皆様にも、児童の登校前の検温・健康観察を必ず実施していただくとともに、体調に不安があるときは登校させずに自宅で様子を見るようお願いいたします。しかし、新型コロナウイルスの感染をゼロにするのは、現実には中々難しいものがあります。まずは、感染防止を第一としますが、同時に、感染が起きたときにはどうしたらよいのか、それぞれの立場で考えておく必要があります。

本校では、感染した児童・教職員が認められた場合、必要最小限の情報ではありますがこれを学校内で共有することを原則とし、濃厚接触者の範囲の特定に役立てるとともに、無用な風評被害を避けるようにしています。感染あるいは濃厚接触者と特定された児童・教職員に対して出席・出勤停止の措置をとるとともに、さらなる感染拡大の恐れを認めたときは学級閉鎖などの措置を取ることもについても、学校医と相談の上、適切に進めてまいります。保護者の皆様には、児童が体調不良で早退となった場合など、急な引き取り要請にどのように対応するか、日ごろからお考えおきいただくようお願いいたします。

そして何より大切なのは、感染者あるいは濃厚接触者となった児童・教職員を思いやる気持ちを忘れないことではないでしょうか。家族が感染者あるいは濃厚接触者になった児童・教職員に対しても同じです。心ない言動をすることは、絶対に許されません。保護者の皆様にも児童にそのような言動がみられたときは、厳しくご指導をお願いいたします。私たちの誰もが新型コロナウイルスの感染者あるいは濃厚接触者等になる可能性があるのです。つらく不安な思いをしている人にやさしく寄りそえる心をもつ農大稲花小の子どもたちであってほしいと思います。

## 留学生と話そう

1月13日（木）は2年生の、14日（金）は1年生の稲花タイム、ともにそのタイトルは「留学生と話そう」でした。東京農業大学は32か国（地域を含む）の海外協定校を有しており、たくさんの留学生が学んでいます。今回は、メキシコからの留学生とインドからの留学生をゲストに招いての授業です。それぞれの国の気候、国旗、植物、スポーツ、食べ物、お祭りなどの紹介を英語でもらったあとは、質問タイムです。2年生はほぼ全員が英語で簡単な質問をし、留学生がやさしく一つ一つの質問に答えてくれていました。とはいえ、日ごろの英語学習への取り組みの差は、このようなときに出てくるようです。ちょっと勉強不足を感じた子どもたちもいましたが、これを機会にこれからさらにがんばってほしいものです。



一方、1年生は先生の助けを借りながらの質問タイムでしたが、コミュニケーションの楽しさを十分に味わうことができたようです。鶏肉にチョコレートソースをかけるメキシコの料理を食べてみたいという子ども、インドで人気のクリケットってどんなスポーツなのか興味を持つ子ども、稲花ってメキシコという言葉でなんと言うの？ インドの言葉では？ など、様々な反応があった楽しい授業となりました。

## 授業参観

1月18日（火）から20日（木）に、各組2コマずつの授業参観をオンラインで行いました。教室に3台のカメラをおき、Zoomでの配信です。担任による国語、算数、社会、あるいは、専科教員による理科、図画工作の授業を参観していただきました。また、休み時間や給食の様子も配信しました。本校の授業参観では教員はいつも通りの授業を行うこととしています。子どもたちもほぼ、カメラを気にせずに授業に臨んでいました。子どもたちの毎日の様子を想像していただくことができたのであれば幸いです。

## 第1回学校説明会を開催

1月21日（金）夕方に1回，そして22日（土）午前中に2回，「2022年第1回学校説明会」をオンラインで開催しました。この秋に実施する2023年度入学試験を視野に，本校設立の経緯，教育理念，カリキュラムの特徴，アフタースクール，教育後援会，そして昨年度入試の実績や今後の予定などについてご説明しました。申込者は1,000名を超え，多くのご家庭に参加していただきました。

校長 夏秋 啓子